一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして(17)

特定健康診査と後期高齢者の基本健康診査時に「甘楽町歯周病啓発アンケート実施事業」を試みて

○安藤佳奈[1)] 入山久美子[1)] 大手めぐみ[1)] 森下成世[2)] 平井まさみ[2)] 萩原泉[2)] 佐藤ひかり[2)]
[1)] 公益社団法人富岡甘楽歯科医師会歯科衛生士 [2)] 甘楽町役場健康課保健係

1. はじめに

富岡甘楽歯科医師会は、平成5年に公衆衛生活動の目標を具体化した「各ライフステージにおける歯科保健対策」を立案し、生涯における歯科保健対策の確立をめざしている。その一環として、管内の各市町村で成人期の歯周病の予防対策が実施されてきた。これまでの結果から、集団検診では実施日程が決まっているので、対象者の都合が合わないと受診ができない。個別検診では、受診率の低さに加え、歯周病の有病者率が高いため、ほとんどの人がブラッシング指導や、なんらかの治療や管理が必要になるにもかかわらず、保険診療との兼ね合いもあり、治療のためには再度来院しなければならない、という問題点があった。そこで、甘楽町と当歯科医師会で検討し、日本歯科医師会の「生活歯援プログラム」も考慮した結果、甘楽町で実施される特定健康診査と後期高齢者の基本健康診査時に、平成26年より「歯周病啓発アンケート実施事業」を新たに試みることとなった。今回はその結果について報告する。

2. これまでの経過

当歯科医師会が歯科保健事業委託契約を結ぶ管内の1市2町1村では、歯周病の予防対策として、各種事業を実施してきた。富岡市では平成13年から「国保成人歯科検診」「成人歯科検診」が実施されていたが、平成25年から「歯周病検診」として行われている。下仁田町では「厄年検診」「節目検診」「成人歯科検診」を平成5年から平成19年まで実施した。平成26年からは「40歳歯科健康診査」「妊婦歯科健康診査」が行われている。甘楽町では平成20年より「妊婦歯科健康診査」を実施している。そして、平成26年より「甘楽町歯周病啓発アンケート実施事業」を開始した。

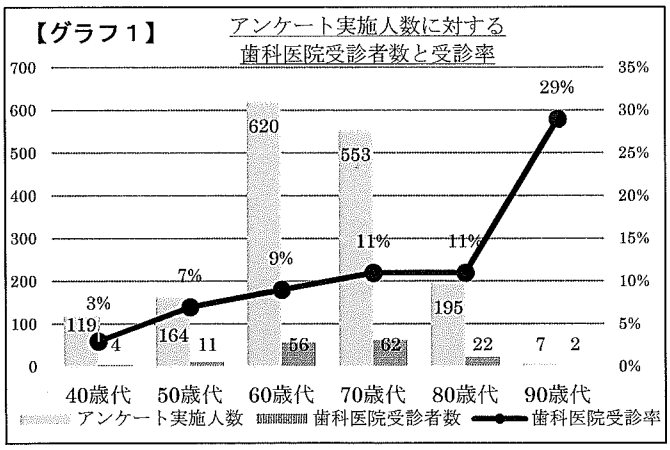
3. 目的と実施方法

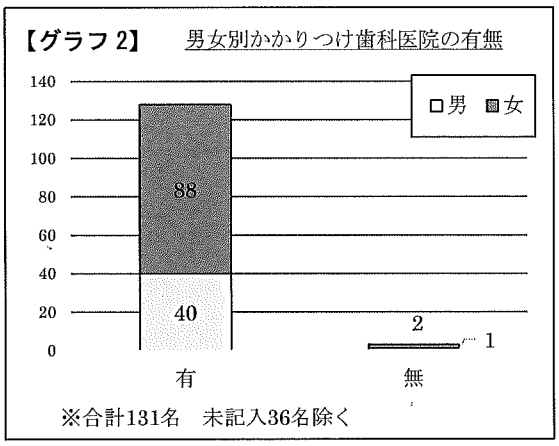
この事業の目的は、アンケートを実施することで、歯周病への関心を高め、かかりつけ歯科医院をもち、定期的な口腔内管理を受ける人を増加させることである。これにより、歯を失うことなく生涯自分の歯で美味しく食事ができ、生活の質の向上と健康寿命の延伸に繋がると考えられる。

実施方法は、40歳以上を対象とし、特定健康診査と後期高齢者の基本健康診査時に同会場で、当歯科医師会と甘楽町で作成したアンケート用紙「お口の健康チェック」を実施する。質問は、全部で13項目あり、結果は0点、1～4点、5～9点、10点以上の4段階で判定し、歯周病のリスクを点数化することで理解しやすくした。すべてに「はい」がつくと24点で、最もハイリスクとなる。また保健師が個別に結果説明をすることで質の高い保健指導が行われ、対象者が自分の口腔内状況をより理解しやすくした。口腔内に問題があり、歯科医院の受診を勧められた対象者を受け入れるために、当会会員から協力歯科医院を募り、アンケート結果と一緒に協力歯科医院名簿を手渡し、受診勧告をした。このような手順で実施された本事業での成果を判断するために、歯科医師の診断結果を当会事務局で回収した。

アンケートでは、無歯顎の人に対しても配慮し、義歯や口腔内の様子についての項目を設け、歯がある人と同様に口腔内の健康についての啓発を行っている。

4. 結果と考察

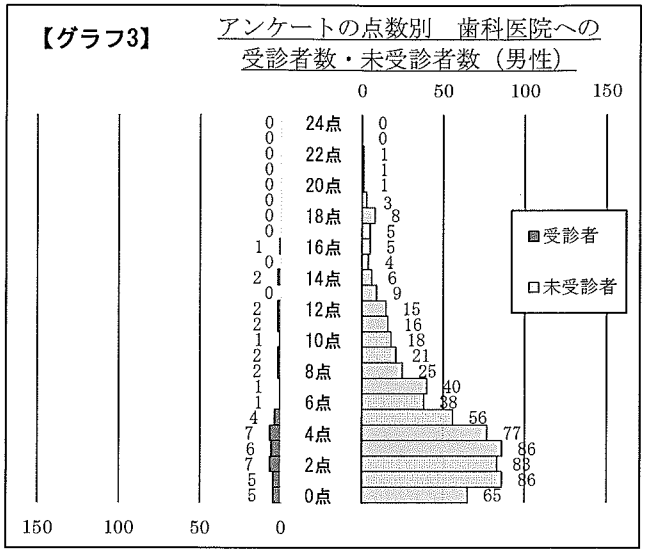


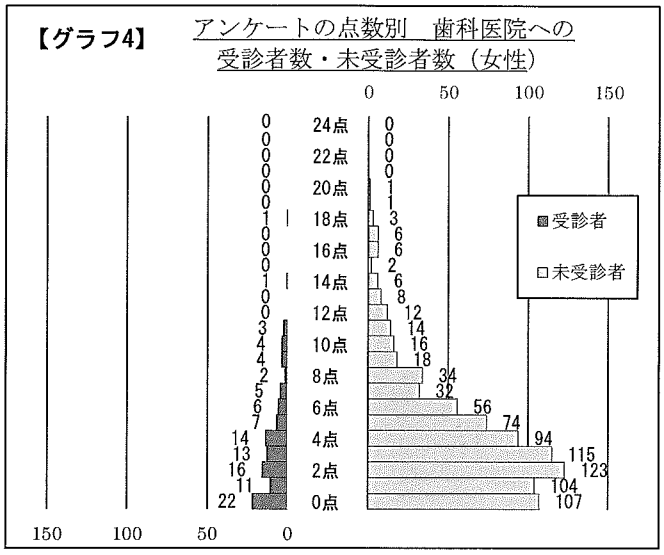


今回「お口の健康チェック」のアンケートは、5月から6月の18日間に1821名（特定健康診査、後期高齢者基本健康診査受診者：1970人／対象5114人）に実施したが、平成26年12月までに協力歯科医院へ受診したのは、全体で167名（無歯顎2名、結果照合不可8名）と1割にも満たなかった。これは、歯周病への関心の低さや予防への意識の欠落、情報不足なども考えられる。【グラフ1】をみると40歳代と50歳代は受診率が低く、この年代では就労者が多いため、歯科医院へ受診をする時間の確保が難しいのではないかと思われる。また、【グラフ2】のように歯科医院を受診した人のほとんどは、すでにかかりつけ歯科医院をもち、日頃の定

期管理として受診していると考えられ、新たな受診にはあまり繋がっていない。

【グラフ 3】【グラフ 4】は、男女別の歯科医院受診者数と未受診者数を表したものである。特にアンケートの合計点数が 10 点以上の人は、重度の歯周病に罹患している可能性が高いと思われる。だが、受診者は男性 8%、女性 14%と低い率を示した。





アンケートの点数（本人の認識）と受診後の歯科医師の所見を比べたものについては、アンケートの合計点数を 0 点異常なし、1～4 点歯肉炎・軽度の歯周炎、5～9 点中等度の歯周炎、10 点以上を重度の歯周炎とし比較した。結果は【表 1】の通りである。本人の認識の方が歯科医師の所見に比べ、多少軽く捉えている傾向にはあるが、ほぼ一致する。【表 2】では、1 点以上の人は 1459 人で、歯周病のリスクがあるとして受診勧告を行っているが、受診したのは 130 人、受診率は 8.9%と低かった。
全体的に、歯周病に対しての“病気”という意識は低く、あまり深刻に捉えられていないように思われる。

【表 1】

		歯科医師の所見				
		なし	軽度	中等度	重度	未記入
本人の認識	なし	2	18	2	1	4
	軽度	1	46	25	4	3
	中等度	1	14	12	4	3
	重度	0	3	7	5	2
					145 名	157 名

※歯科医師の所見未記入 12 名

【表 2】

特定健康診査 後期高齢者の基本健康診査 対象者					5114(人)		歯科医院受診者数	受診率
	健康診査受診者				1970			
		アンケート回答者			1821			
			無歯顎		160			
			有歯顎		1661			
				0 点		199	27	13.6%
				1～4 点		847	79	9.3%
				5～9 点		428	34	7.9%
				10 点～		184	17	9.2%

5. まとめ

今回の歯周病啓発アンケート実施事業の集計をして、2 つの課題が見つかった。1 つ目は、アンケート実施人数に対して受診率が低いことである。これに関しては、管内の他市町村で行っていた歯周病検診についても、同様の課題があげられている。むし歯も歯周病も、痛みや歯の揺れ・歯肉の腫れなどの自覚症状が出ないと、歯科医院に受診しない人が多いのが現状である。

2 つ目は、歯周病に関するリスクや予防についての情報不足が考えられる。成人では仕事や家事・育児など個人の生活習慣がすでに確立されており、歯周病予防のための動機付けや習慣付けがなされても、すぐには行動変容を起こし難い。そのため、人の一生の中で生活習慣を確立していく学齢期の教育が重要である。むし歯や歯周病についての知識や情報を習得し、個人の意識を高めるとともに日々の自己管理の習慣やかかりつけ歯科医院をもち定期的な管理を受けることの重要性を認識してもらうことが大切なのではないか。

歯科の 2 大疾患であるむし歯と歯周病は、ともに不可逆的に進行するため早期の予防が重要である。むし歯の予防にはフッ化物の利用、特に公衆衛生的な対策の実施、歯周病の予防には適切な歯みがきの習慣と、かかりつけ歯科医院をもち定期的に予防管理を受けていくことが大切だと思う。

このアンケートによる方法は、歯周病のスクリーニングに有効であると考えられる。今後「歯周病啓発アンケート実施事業」を各種事業で取り入れ、かかりつけ歯科医院による歯周病の定期管理へと繋げていきたい。